

## 第2回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成27年7月22日（水）19時～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 24名（欠席13名）  
事務局 7名

### 1 会長あいさつ

第2回光市まちづくり市民協議会の案内をしたところ、あいにくの天候で足元の悪い中、また、公私共にお忙しい中、出席いただきまして御礼申し上げます。

本日は（仮称）光市人口ビジョン中間案の説明を事務局よりいただいて、その後皆様方の活発な意見交換をしていただけたらと思っている。

議事の進め方については第1回の協議会の時に委員の方から提案もあったが、後ほど議事の進行については事務局の方から説明がある。

委員の皆様方の活発な意見をいただきながらこの会が有意義に進んだら幸いである。

### 2 連絡事項

事務局より説明

- (1) 山口銀行の人事異動による委員の交代について
  - ・光支店長の交代により、本協議会の委員も交代した。
- (2) 本日の議事の進め方について
  - ・議題に加えて3つのテーマについて意見交換したい。（1つにつき20分）
  - ・全体会議終了後、時間の許す方については、座談により意見交換の延長戦を行う。

### 3 議題

#### (1)（仮称）光市人口ビジョン中間案について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等  
→意見なし

#### ●事務局

人口ビジョンの件で一点だけ、皆様にご意見をいただきたい。23ページに総人口の推計を資料で載せているが、これは光市全体の推計である。前回の説明の中で申し上げたが、これとは別に市の方では各地域別の推計についても行っている。

この取扱いについて内部で検討をする中で、人口問題は光市全体という大きな枠で考えたいという思いがあり、地域別の現状を示すことで地域に目が向いて議論の焦点がずれてしまうという懸念もあり、今のところ光市全体の推計のみを示している。

後期基本計画の中では地域別整備計画ということで市内を東西南北4地域に分けて計画を示しているが、例えば4地域ぐらいに集約した形で将来人口を示した方がよいか、市全体の方に目を向けるために全域の人口のみを示した方がよいかについて皆様からご意見をいただきたい。

●委員

今日のテーマは非常に今から大きな問題になってくると思っている。私たちが現役時代に生活している中では昭和の時代で右肩上がりの日本という状態であったが、平成以降は右肩下がりになっている。

なぜかと言うと、都会に行けば何とか暮らせると考える若者が増えている。逆に言えば光市が、例えば各地区の中での生活に魅力がなくなっていると思う。光市の中で安心して安全に生活できる場所と環境があり、若者の家庭の営みが安心して出来れば、何も都会に出るだけが能ではなくなる。

結局どうするかというと、自主的に地域で何か物事をおこす、地域ごとにプランを練って魅力のある地域にしていくとか、色々な問題点を地域ごとに皆で話し合っ、ここは行政にお願いする、ここは地域で考えようというような雰囲気が出てくるような活動が出来れば良いと考えている。そして今それをしている。

●事務局

今は光市全体の人口推計を示しているが、実は13地区別にも人口の現状と将来推計を出している。それをここに載せることによって地区別の細部の話になるのではないかと考えているが、地域別の計画なり地域別の人口推計があった方がよいというのであれば考える余地があると思った。

しかし、今の話を聞いて地区別のコミュニティプランを作ろうという動きがあるので、その中で人口は地区ごとに推計してデータを回すことにして、これは光市全体の人口の動きを見るということに留めさせていただければ良いと感じている。

●委員

そういう共通の認識の上に立って、地域ごとに自分たちの地域をどう活性化させるか、それを大きく集約すると、光市全体がどう動くかという結論になると考えている。

●委員

資料の中に人口推計方法が載っているが、これに則って光市も推計していると思うが、これは専門家が作った公式があって、現状の数字を入れれば出るのか。その場合に母数が日本国というような大きい母数と光市あるいは各地域という小さな母数になると推計の公式が全然違うと思う。それを無理やりはめて推計すると大きな間違いが起こっているがいかかがか。

●事務局

あまり細分化していくとかなりの誤差が生じてくると思う。提案の中で東西南北の4地域ぐらいだと申し上げたのは、そういう意味合いで少しでも母数を上げないといけな

いという思いである。推計をする上では母数が少なければ、誤差が出てくる、そのような懸念はあると思う。

●委員

先程の情報であるが、正確な情報はあればある方がよいと思う。計画を立てる上で大きく参考になるのでみなさんが全体を考えた上でのという意識さえ持っていればあった方がよいと思う。高齢化社会が進んだときに安心した環境で高齢の方が住むことについて病院をどうすればよいかという考え方があったと思うが、私の住むところは病院以前に交通がない。バスが全くなって年輩の方は車を持っているが、運転が出来なくなったら常にタクシーになるねという話をしている。このように場所ごとによって抱えている問題は違う。全体的なものを見せるのも大切だが、そういうことも踏まえて詳細を見せることも必要ではないかと考えている。

●事務局

取扱いについては、検討させていただきたい。

(2) 人口ビジョン中間案を受けて、テーマ別意見交換

【テーマ1】結婚・出産・子育て施策について

●委員

アンケートについてもっと詳しく出来る環境が必要だと思う。みんなでハッピーバスデー事業について、私はありがたいと思っているが、そのありがたいことをしてもらった所に簡単なチェック式のアンケートを入れたらどうか。これ以外の事業についてもみなさんから本音を聞くために実施した方がよいと考える。

このアンケートは正確な情報を得ることだけでなく、参加しているという意識付けにもなると思う。妊婦の方などが自分の思いを伝えることが出来る、自分も参加して協力しているという意識を持たせることが出来ると思う。

メールマガジンをお母さんに家庭用に配信する。負担に思う方もいると思うので簡単な情報を月1で出来ればよいと思う。母親教室に参加したら同年代のお母さんの友達が出来て、今でもお付き合いをしているが、サークルの中で連絡するなどのお世話係をすることが大変だったので、それを代わりにやりながら情報も発信してお母様方の団結力を図るなど、市との関わりをもっと身近なものにすると、孤独になることもなく育児が楽しくなると考える。

サークルでも自分自身にメールが来たら行かなければと思うとの意見があった。大変であれば、お世話係は1年ごとに交代して簡単な仕事として提供すると、自分の存在意義も生まれると思うので、少し工夫して今まであるものにプラスアルファを考えると子育て共感イメージも向上するのでよいと思う。

●事務局

アンケートという発想はなかったが、欲しい情報によってはそういう方法も良いと感じているので、参考にさせていただきたい。

メールマガジンについては、あいぱーく（健康増進課）の方から配信するサービスはあるが、きめ細かいサービスというよりは一般的な検診日時や行事等の日程であったかと思う。そういった中でどのような工夫が出来るかについては相談してみる必要があると思うので、こういった形で反映できるか検討してみたい。

#### ●委員

今は女性が働くのが一般的になっている。結婚して一人子どもを産んで、もういいよという家庭が増えてきていると思うが、結婚して子どもを産むと仕事を辞めなくては行けない雰囲気がまだある。一人目はいいとして二人目を産んで仕事を続けたいと思ったとき、二人目を産んでも仕事は担保できるという企業が増えてくれば、母親も安心して仕事を続けられる。このようなことが大事ではないかと思う。そのためには、我々だけでなく子育てしながら仕事をする人を温かく迎える企業を増やしていく必要がある。

若者に都会から来てもらう件については他の都市でも色々やっているが、まず来たいと思う、一つは住めるか。住むことをクリアしても仕事があるか。子育て、教育環境はどうか。そういうのを市町村のホームページなどで確認しているみたいである。そしてここなら環境もいいので情報が欲しいと考えて光市にアタックする流れになる。そういう魅力ある光市であるために、皆さんがパソコンでチェックする時に色々な情報が正確に分かるようなシステムを情報として発信する必要がある。

あるまちでは住宅と土地が無料で提供される。20年住めば無料で土地と建物を渡すという制度がある。非常に人気があり、そのような魅力ある条件が大事だと思う。

#### ●委員

今の内容と関係するが、光市には二つの産婦人科があり、この二つの病院で出産された方が多くいると思う。せっかく光市で出産されたのだから、何とか光市にその人達にとどまってほしいという意味で、例えば光市には空き家が多い。この空き家対策と光市で産んだ人がここ光市に住むように行政の方で家賃補助等をすれば、光市に住んでみようという気になるかもしれない。そうすれば人口が増え、買い物客も雇用も増える。空き家対策と光市での出産をどう結びつけるか行政に検討していただきたい。

#### ●委員

テーマ1について、娘の友達が梅田病院に行くと言っている。会社で結婚したばかりの若い女性に何故光市に住むのかと聞いたら、出産の距離が近く絶大な安心感があると言われた。出産子育ての環境はそのコアが出来ているからその延長線を延ばしていく施策が大事であり、差別化する魅力につながる。

ただ、テーマ1の中で「結婚」というのは違うと思う。会社の中でも独身で適齢期の男性も女性も増えており、結婚に対する施策は難しいと思うが、これをやらないと出産や子育てに到達しない。

何かないかと考えていたが、スポーツやサークル、グループの場を作り、人と出会う機会が多くなるような施策を加える必要があると思う。

光市の都市アピールが話に出たが、項目の中に結婚に関する施策を組み合わせるPR

するために「市民総部活」みたいなものがないかと考えている。出産子育てという流れは光市ではスタート地点が出来ていると思うのでこれをどう拡充するか、どう条件をよくする、どうPRするかということが重要だと思う。

●委員

先程の意見と同じような考えであるが、今の若い方はなかなか出会う機会がないということをよく聞く。そこで出会う機会を提供し、積極的に結婚を支援していくことが大事である。昔は仲人がいたが、そういった見合いが出来る環境を作る事業ができればよいと思う。結婚相談が出来るような場所をみんな望んでいると思う。ただ個人情報の関係もあるのでしっかりした所でないとなかなか難しい。それと民間団体の婚活事業を広めるためにも財政的な支援があればよいと思う。

●委員

今の話と関連するが、独身の女性は多くいるが、「婚活」という言葉にひいてしまい参加しにくいと言われた方が多くいた。みんなが楽しい環境を作り、出会うだけでなくここに住みたいと思ってもらうことも大事だと思う。

また、何かをおいしく食べる会やコーヒーをおいしく飲む場所、バーベキューなど、食や環境を活かした取り組みを実施し、婚活だけに参加するのではなく、友達を作りたいという人であっても参加できるような取り組みを進めたら良いと思う。

●委員

私は出産については想像がつかないが、出会いがないという話はよく聞く。婚活については時々耳にし、友達と話をすることもあるが、財政的な所でつまづくのはもったいないので補助金のような仕組みがあるとよい。先ほどの「市民総部活」のようなスポーツの場は楽しみやすいし、取り組みやすいと思うので私も入ってみたい。

●事務局

空き家の話も出たが、市も今年度より空き家バンク制度を設けて空き家を有効に活用するための取り組みを始めた。結婚については出会いの場を作ることや街コンのような取り組みをしている自治体もある。行政がどこまで入っていくのがいいのか慎重に検討すべき部分もあるが、何らかの形で後押しが出来たらと考えており、意見を参考にしたい。

**【テーマ2】雇用・産業振興対策について**

●事務局

雇用・産業振興面からどのような対策が求められるかについて皆様方からご意見を伺いたいと思うが、その前にハローワークからお示しの資料の説明をいただきたい。また、先ほど質問にも出た一人目を産むと仕事をやめないといけないといった雰囲気等についても現在の状況を聞かせていただきたい。

●委員

過去20年の高校生の卒業者の数字と就職希望者の数字をグラフにした。20年前には県内で2万人の卒業者がいたが、現在は1万2千人前後で推移している。就職希望者

数についてはリーマンショックが平成20年の秋だった。求人数はリーマンショックの前に結構山になっていて高校生に対する求人が増えていたというところで、リーマンショック後の21年度に大幅に下がりそれから徐々に求人が上がってきた。特に25・26年度は高校生の求人が多く出たというのは景気回復が背景にあるが、もう一つ大きいのは団塊の世代が65歳を迎え年金が満額もらえることから就労のステージから卒業された。こういったところで新卒者を採用しようという企業の意向があり、求人が増えた。

就職希望者の数は昨年度が3,133人で前年比207人増えた。卒業者は12,168人で前年比150人増えたが増え方よりもさらに就職希望者数が増えた。求人数が増えれば大学等に進学するよりは地元で早く就職しようという考えになってくるので雇用の場(求人)が沢山あれば就職希望者も増えて県内に残ってくれる。県内の割合が大体毎年80数パーセントで、それ以外が県外就職である。

雇用保険の保険料の中から退職せずに育児休業を取る方に対して休む前の給料の約67%の金額の給付金を支払って休むための育児休業給付金制度がある。制度を利用している方はハローワーク下松管内で毎年100人から120人程度いる。その数字がもっと増えてくればもっと休みやすくなるが、退職される方も中にはいる。企業も代替要員を確保することが難しいことから職場環境が充実していない問題もある。

#### ●委員

雇用の前に、やはり教育だと思う。50%ぐらいが高校を出て進学し、約50%が就職している。光市の一番の欠点は実業高校がないことである。だから就職希望の人は他市に通学する。企業から募集がくるのも実業高校が優先になる。

光には私立を入れて3つ高校があるが、すべて普通高校である。大和地域でも就職する人は他市にある高校に行く。そして就職したら光市に住まない。その辺をよく考えないといけない。

子育ての次は教育である。子育て、教育をつなげて結婚までという環境を作っていないとだめだ。そうしないと光市の人口は減っていく。下松の安心度は全国3位であり、利便性は全国7位である。これだけ評価されているのでその辺ももっと考えないといけない。だから3市で一緒に考えるか、光市だけで考えるか。企業の方に状況を聞きたい。

#### ●事務局

教育について、コミュニティスクールでどのように子どもたちの地元を愛する心を育てているのか参考までにお伺いしたい。

#### ●委員

光市では全小中学校で「コミュニティスクール」を作っているなので、その取組みを紹介したい。光市では、昨年度各小学校がすべてコミュニティスクールになり、これで全小中学校が指定された。光市全体でのコミュニティスクールになることでの狙いは3つある。一つは学校運営の質の向上であり、今までは学校長が中心となって学校運営していたが、ここに地域の方にも入っていただいて一緒に考えていく。ここはどの学校も狙っているが光市独自の狙いがあと2つある。

2点目は地域の子どもはみんな育てるという意識の醸成である。3点目は故郷を大切にすゝる気持ちの育成とコミュニティの活性化である。コミュニティスクールにすることで人口流入とか人口減少の歯止めにどこまで効果があるかについては始まったばかりで分からないが、学校教育の質が上がってくると考えている。今までは教職員で学力の向上や学習環境の整備、いじめに対する対応などをやってきているが、ここに地域の方々の応援が入ることによりきめ細かな対応ができるだろう、学校の質の保証が今よりも出来るだろうということが、期待できると思う。

もう一つあるのが、子どもたちに地域への郷土愛や誇りを育てていくということが大きい。地域のことを学習したり、職場体験や福祉教育、環境教育などを地域の人達に支えられながら行っていくことで、地域の人達に育てられたというある種の物語が子どもたちの中に根付いていくと思う。一旦県外に巣立っていった子供達が、光は良かったなと地域のつながりの中で色々支えてもらったという意識が心の中に芽生えていけば再び故郷に戻ろうという気持ちになると思う。

そういう意味で地域の人達と一緒に子どもたちを育てていくことがすぐさま子供達がここに留まって光で仕事をするということにはならないかもしれないが、やはり光のよさ、温かさ、人とのつながりを感じて育っていけばUターンにもつながっていくと思う。だから教育というものはとても大事な要素の一つと考えている。

#### ●事務局

教育の大切さを改めて認識した。農業をやる中での課題等はないか。

#### ●委員

色々課題はある。住むところも大変探した。空き家があっても住める状態ではない所が多く、墓の問題や土地を借りるにも農地の問題があつて、とても時間がかかった。

市や地元の方の声がけがあり色々なことが決まっていたが、これが大事なことだと思ふ。私は新規就農するにあたって移住したが、小学校のこととか、コミュニティスクールとかがあつて何とかやっていける状況なのでまだ色々課題はあるが、空き家の問題等についてももっと分かりやすい方がいいと思う。市役所に相談しに来たときに物件の場所や設備等について写真で分かるようにして、実際に自分で見に行けたらいいと思う。

#### ●事務局

この件について最後になるが、企業の支援をされる金融機関の方から雇用面で少しご意見をいただきたい。

#### ●委員

地元の卒業生を採用するようにはしている。来年度もそのつもりである。ただ、意見を聞いて思うが、今各市町村が地方創生の取組みをやっているがおそらくみんなが同じことを考えている。光市の魅力を発信するにはどのようにPRするかが大事であると思ふ。CMが全国放送され、その中に光市役所や光駅も出て、饅頭も出たが、どのように光をPRできるかというのが大事だと思ふ。

婚活のことについて、今、テレビで婚活番組がある。市がやるのがいいのか、商工会

議所がやるのがいいのか分からないが、光市まちづくり市民協議会が中心となり、イベントをやるのも一つの手だと思っている。

●委員

ずっと長らくデフレ社会ということで賃金も安くなり、生産も落ちている状況であったが、ここに来て情勢が変わってきている。雇用についても就職希望者数より求人数が上回っている状況であり、賃金についても大手を中心に上がっている。光市には大手企業があり、従業員をシフトする動きもある中で、関連企業は仕事が増えていくと思う。そういう所が雇用を増やしてくれれば波及効果が出てくるので、そういう企業を市としても応援していただきたいし、我々金融機関としても資金面で応援したい。

昨日付けで地方創生のコンサル会社を設立しているので、そういったものも活用してもらいながら、やはり人を増やすためには働く場がないと戻って来られない。今の世の中が変わってきている中、この機会を逃さずに光の経済規模を上げていくことが産業振興や雇用対策に繋がると思う。色々協力しながら出来ればよいと思っている。

【テーマ3】UJIターン促進対策について

●事務局

最後に「移住や光市に人を呼び込む」といった面から、どういった対策が求められるか、お伺いしたい。また、交流人口が定住人口にどのようにつながっていくのか、大学生がどのような意識を持っているのかお伺いしたい。

●委員

交流人口というのはビジネス、仕事や買い物、スポーツや観光など色々な形で光市に来る人がいるが、その人達が定住しようと思ってこの町に来ることはまずない。定住しようとしている人には移住体験ツアーといった手法が取り入れられているので、目的をはっきりさせて交流人口を定住につなげる必要がある。

定住人口は減ることが目に見えており、その人達が消費していた分をまちに入ってくる人に補うとの考えである。人口一人が1年間に消費する額が約124万円であり、観光客に換算すると宿泊客が24人、日帰り客だと79人という推計がある。「観光」とよく言われているのはこのためだ。

2点目は教育の話もあったが、大手企業から内々定をもらった学生と就職の話をしていて、地元で未練はないのか聞くとないそうだ。理由を聞くと「22年間住んできて面白くない。飽きた。田舎では遊ぶところもないし、都会に行きたい。」と言った。これは雇用や産業のところにも通じるが、光市の産業は製造業に特化していて、そこを維持することも大事だが、今の日本全体の産業構造から考えると60%以上がサービス産業であり、サービス産業というのをどれだけ考えていかをみていかないといけない。若者が魅力的と感じるのはサービス業である。だから製造業で雇用は維持しつつどうやって若者に魅力的な雇用も含めたサービス業を育成するのが大事だと考えている。

●事務局



そのほか、U J I ターン促進ということで皆様方からご意見をいただきたい。

●委員

改善の余地はあるのか。前回（第4期）の時も婚活の話も出したし、空き家対策など色々話が出たが少しでも改善されているのか。同じことの繰り返しみたいな感じがする。

●事務局

空き家の利用で言えば、7月25日号の広報に出す予定であるが、市外在住者を対象に空き家情報の希望者とマッチングする「空き家バンク」という制度を今年度始める。婚活は個人のライフスタイルの問題など行政としても手をつけることをためらう部分もあるが地方創生と言う流れを機に一度仕切り直してこれから対策を考えていこうという段階であるので出来ることはやり、色々検討した上で出来ないものは見送ったというような形になる。

●委員

中間報告が少し欲しかった。息子が東京と大阪にいて帰って来させたいが今以上の就職がない。改善の余地がない。今の職を辞めてまで光市に帰ってくることは無理だと思う。光に帰ってきててもすぐに東京へ帰りたがる。楽しくないし遊ぶところもないし、逆に「東京に来たらどうか」と言う。友達もみんな都会に出ているので興味がない。改善と口で言うのは簡単だが、具体的に真剣にやらないとまた皆さんお忙しいのに集まられてそのまま終わるのではないかと思っている。

●委員

単市の問題ではなくて、広域連携で徳山とか下松と連携しないといけない。サービス業は人口規模と比例するから、ある程度広い範囲で魅力的なサービス業を呼んでくるというスタンスでいく必要がある。だから単市よりも広い目で見えていき、光市は住みやすいということになれば光市に住み徳山に遊びに行ける。サービス業は人口が物を言うので、東京や大阪、名古屋に集中する。だからそういう広い目で見えて魅力を作ることも必要ではないか。もう一つは定年後と言うか年齢層の話で人口を増やすために色々な考え方があるが、年齢についても考える必要がある。

●事務局

雇用の問題は本質的で一番難しい問題だと考えている。行政としてなかなか打つ手がないというのが正直なところである。ただ行政とすれば企業が光市に来ていただくために企業立地促進のための支援を、例えば来てから何年間かは固定資産税を免除するとか新規に就労する方に対して支援するという誘導策は持つが、サービス業は人口がないと成り立たないし、サービス業がある魅力的なところに人が集まってくるという問題もあると思うし非常に難しい。

ただ、それに手をこまねている訳ではなく行政として出来るところで支援策は講じているし、先程製造業を維持することがすごく重要、製造業を維持しながら魅力のあるサービス業も増やしていくという話があったが、広域連携という話も含めて言えば、例えば我々が中学時代に習った周南地区の瀬戸内工業地帯というものがある。周南地区の

大手企業は工業用水の問題が課題になっていることから、それを山口県全体の産業構造を維持していく為に光市から工業用水の供給をすることを光市の方でも英断しているし、光市だけでなく周南地区の産業を育成することによって光市にも恩恵があるということにもなる。何か手を打てばすぐに解決するという問題ではないだけに非常に難しいが、出来ることから色々なことをやっているということはご理解いただきたいと思ひ、今からできることは手を打っていきたい。

●委員

今の意見は非常に参考になったが、行政だけでなく地域も一緒になってやるべき時代になったと思う。むしろ地域がこのような問題を抱えているし、こういうことをしたいということを地域は地域の力で考える。これを手助けするのが行政の役割ではないか。夢プランみたいなものを各地域が一つずつ持ちながらやっていくことが大切ではないかと思うがいかがか。

●事務局

今年度各地区に地域担当職員を配置し、コミュニティプランの作成も今年度よりスタートすると聞いている。そうした中で各地区の方で課題の解決方法や将来のビジョンが皆さんの手で描かれていくと考えている。そうしたところで行政も色々参画していくし、逆に協力をお願いするところもあると思う。そのような取組みも始まっているので見守っていただきたい。

●事務局

このテーマにつきましてはここで終了とさせていただきます。本日はそれぞれのテーマについて皆様から多くのご意見をいただき御礼申し上げます。テーマをまたぐような話題もありご迷惑をおかけした。本日はいただいた意見については、これから総合戦略を策定していく中で参考にさせていただきます。

## 5 その他

○ 事務局から今後の予定について連絡

- ・次回会議の開催時期は盆過ぎ頃を予定（光市総合戦略中間案について）
- ・次回から開始時間は18時30分からとすることを検討したい
- ・議事録について、次回から委員の皆様へ配布することとしたい

第一部終了 20時53分

## 第二部 座談会

出席者	委員	9名
	事務局	7名

### ●事務局

委員から結婚支援の話が出てそこに集中したが、市民アンケートの全部の意見に目を通したが、感覚的には下松や周南と比較して子どもの医療費の支援等について、「おっばい都市宣言」を標榜しているのにまだ弱いと言う意見が結構多かった。これに関しては一回やるとやめられないので慎重になる所はあるが、おそらく今日は皆さんからそのような意見が出ることも覚悟していた。

### ●委員

先程産婦人科の話が出たが、光市は「おっばい都市宣言」をしていて、母親としてのスキンシップを取ることは重要だからしっかり抱きしめてあげなさいという趣旨だという気がしているが、そこまでゆとりがあるのかと悩んでいる。0歳保育を考えている家庭もある中で、ゆっくりスキンシップを取りなさいという思想にギャップがあるのでどうしたらよいかと感じている。

### ●委員

市民アンケートについて、過去に一度届いたことがある。育児中で忙しく途中までやっていたが、量が多く文章で書くところは後で書こうと思っていたが結局出来なかった。

アンケートの回収率は低いのでこれに影響されるとまずいと思う。忙しくて書けない人も多いので、正確なものを作りたかったら簡単に出来るアンケートを一つ作れば本当に苦しんでいる人がどれだけいるのかが分かると思う。

### ●事務局

各部署からあれもこれも聞きたいと言う要望が出るので、結局厚くなってしまう。これは反省点である。言われるとおりの限界があるので簡単に書けるようなものにしないと回収率は上がらない。ただ今回の地方創生に係るアンケートは対象年齢を18歳から49歳までにしてはいたが、回収率は市民アンケートにおけるこの年代の回収率にしかならなかった。今回はテーマによりこの年齢層を対象にしたが、行政としては高齢者施策も捨てられないし、なかなか難しい。

### ●委員

本当につらい人が余裕のない人なので、そういう人達をまず探すこと。多分偏っている部分もあるのではないか。実施にはお金もかかるが。

### ●委員

先程医療費補助の話があったが、人口について考えるときに50km以内の人口移動を考えるだけ無駄だと思っている。「市」という単位で話す必要のない案件がこの中にあると思う。むしろ50km以上遠からどれだけ人を呼んで来られるのか、どれだけ人の気持ちを寄せてくることのできるのかということだ。

それで例えば光が盛り上がったなら地盤が盛り上がる。下松も柳井も盛り上がるといった施策の方が王道だと思う。結局50年先に筋のいい話でないと生き残れないと思う。50年先に市の枠がどんな形になっているかは誰も分からないが、この50km範囲内に住んでいると言う概念は多分一緒である。だから隣の市と比較するのではなく、遠くから人口を増やす施策にしなければいけない。結婚、出産のベースが上がって呼び水になりそこに力が加わっていくことがこの問題の行く末だと思う。そこに手を抜いて産業振興をやろうとしても引きずられて落ちていく。

全国どこでも同じようなことを考えているため、目立つことは難しいが、限られた資源を投入して、先ほど「市民総部活」という話をしたが、ここに投入して5年経ったときに何か変わってき始めたぞとなれば思い切って投入するという風に、一か八かではないがそれぐらいの気合を入れなければいけない。総花的な計画になってしまうとアピール度も落ちるし、ただ目立てばいいということでもないのであんばいが難しい。

#### ●事務局

今の前段の部分について、企業活動をする上では行政区域はほとんど関係なく、エリアとしてしか考えていないと思うが、ただ行政は行政区域があってその中でしか考えられないという習性がある。今回の総合戦略の作成にあたって他の自治体と連携してエリアで一つの総合戦略を作る取組みをやっている事例は全国ではある。

ただ光市では、昔は周南地区4市4町でやろうという土壌というか雰囲気はあったけれども残念ながら今はない。平成の大合併で一段落して周南市ができ、下松は単独市制、光は大和と合併し今のところ落ち着いているという所で広域行政ということが一時ほど盛り上がっていない。

#### ●委員

多分共通の危機感と言うものが一回薄れてしまったからではないか。次に来た危機感がこの人口減少でそれを目の前にしてどうするか。

#### ●事務局

その中でまさしく広域的なエリアの中でやるのが鍵になり、それが特効薬になるのならまた広域合併となるかもしれない。おそらくそうはならないと思うが。

#### ●委員

このデータを見ながら29,000人の光市というものがどういう住み方をするまちなのだろうかと思った。その中で13箇所に分けるか4箇所に分けるのかという話があったが、大胆な都市計画の枠組みを変えないと閑散としたまちになる気がした。その時に会社がどのような影響を受けるか考えてそれについては答えが出なかったが、50年先の姿をどういう風に見るのかということ、先ほどの地域全体を考えないといけないというのは分かるが、閑散としたまちがあちこちに出来てしまったら山口県はどうなるのだろうかと思った。

#### ●事務局

趣旨が違うかもしれないが、人を一箇所に集めるコンパクトシティがまさしくその発

想である。ただそれも一箇所に集めるだけだと反発を受けるから国は「コンパクトと連携」という言い方をしている。

●委員

これについても光市の歴史がそうではないか。分散している。花火大会が二つあることも気に入っている。歴史をたどれば光市というのは中心が形成しにくいまちである。

●事務局

それを昔から光市の強みとしてまちづくりをしてきたこともある。だから一箇所に大規模な施設を作るのではなく、各地区に身近な施設を作ってそれぞれの利便性を図るまちづくりを光市はしてきた。

●委員

それで要は人が減るとどうなるかということである。

●委員

ただその数字が、おそらく光市がそんなに減らないと考えている人が大部分だと思う。そういった危機意識が非常に薄い。思い切った対策をしないと本当にそうなると思う。実際にデータは出ているわけだから。

●委員

29,000人にはならなくても35,000人ぐらいにはなるであろう。

●委員

周辺に子どもの数を聞いてみたら大体二人しか産んでいない家庭が多い。うちは三人であるが、三人目の手当てを厚くしたらいいと思う。子どもを財産と思って、ある程度税金の投入もよいと思う。

●事務局

アンケートにおいて現在、何人子どもがいるか、将来的には何人持つつもりか、そして本当の理想では何人欲しいかということを知っているが、現実と理想にはギャップがある。3人のお子さんを持ちたいと言う声は多いが、実際には1.9人しか産んでいない。そのギャップを埋める、希望を叶えるためにどのような支援をするか行政が考えないといけないと思う。

●委員

私も経済的な理由で産まないはずと思っていたが、実際どうなのかなと思う。保育園で、働いているお母さんに聞いてみたら、年齢の問題、つわりの問題などの声が私の聞く範囲では多い。だから実際のところはどうなのかなと思う。

●事務局

これもアンケートで理由を知っているが体力的なものとか、住む場所が狭いといった声が多くあった。

●委員

アンケートとかではなく客観的なデータ、例えば光市内の第一子出産年齢が20年前と今を比べてどう動いているかとか、年齢構成の中に男女の独身と既婚の比率等のデー

タがない。ただ先ほどの話の裏付けになるのは第一子出産年齢がかなり上がっているとすれば第三子となった時に年齢が支障となる。

ある会社の社長が言っていて面白かったのが、女性が子どもを出産し一旦就業から離れてもう一度就職して働くという、労働年齢がM字カーブになっていることが多いが、それよりも学生結婚を推奨し、学生のうちに2、3人子どもを産んでその後就職したらずっと働けるとの意見である。私は30年ほど前に光市で結婚したが、当時は結婚年齢が若かった。女性の結婚年齢は20代前半が多かったが最近はそうではないと思う。

●事務局

それは国レベルでは第一子出産年齢が上がっているというデータが確かにある。平均初婚年齢についても上がっている。ただ残念ながら光市のデータはないが全国的な傾向と一緒だと思う。

●委員

ただそこに対策を打たないと解決の方向に向かわない。

●委員

結婚年齢が上がってくるということはそれだけ価値観が多様化していることである。ゆとりがないのか、ゆとりがありすぎるのかどちらか分からないが。

●委員

独身のある女性に休みの日に何をしているのか聞いたところ家でネットをしているそう。インドアの人をどうやってアウトドアに出していくかが先程の部活発想である。それで先程全国にアピールできるようにと言ったのは、例えば結婚年齢や初婚年齢については数字が出るので全国1位が狙える数字である。「光」という名前だけではなく、「光市は全国で一番結婚年齢が若いらしいぞ」ということにもつながってくる。そこが結局何人子どもを産むかということにも繋がってくるという意味では性根を入れて取り組むテーマだと思う。これは多分婚活パーティーとかではないと思う。それもあるがベースの所で出会いの場というか機会の多いまちなのだ、光はそもそも明るいのだと。

●委員

おっばい都市宣言があつて、光市には二つの産婦人科がある。人口に比べて光市での出生率は全国的に見ても相当高いのではないか。それをアピールしたらどうか。

●委員

出産・子育ての条件は揃っているが結婚の所が弱い。そこをPRするためには結婚の所にいい施策を打って数字がよくなればいいのか。

●委員

私も「結果のある婚活をしないか」と周りにやたらと言っていた時期があったが、人を集めるだけで終わったという流れだと結果がない。やればいいのかというものではない。中身とか。その人自身が分かりあえるか。知り合える仕組みと言うものを中心になってやるのにふさわしい人を選ぶことが大事だと思う。若い方は企画力がある方が多いのでそういう人達を人選してチームを作る。もしそれが職になるのであれば若い人の就職で

もいいと思う。そういうものを作って委託することも一つの手だと考えている。

#### ●事務局

今までは婚活について行政が手を出さず役割なのかどうなのかという議論もあり、実際に婚活と言うことになったら例えば民間業者がいる中で民業圧迫と言われかねない。ただ、今は県も堂々とやっている、国もやっている、市もあちこちでやっているという流れではある。市がこれまでやることに対して躊躇していたのは事実であるが、決してそういう時代ではなくなってきたと感じている。

#### ●委員

行政がやるのではなくて地域が編み出したアイデアで実行して、それに行政がお金を出す必要があるのではないか。やはり市役所の中でいかにお金を出させて自分のところに持ってこさせるかと地域が考えなければいけない。大手の会社の収益がよくなれば市もよくなるが、それ以外にUターンして帰ってくる魅力ある光市を作るためには地域ごとに活動できるようなことを考えるべきである。

すぐには出来ないと思うが長期的に考えてやらないといけない。コミュニティスクールについても同様である。行政の地域振興アドバイザーも地域の人と一緒に考えてやっいていこうとしている。これには5年とか3年とかの単位が必要だと思う。その中で魅力あるものを作っていけばUターンして帰ってくるのではないかな。

#### ●委員

幼少時代の思い出が大きいと思う。私自身地域の人達と触れ合えたからいい思い出がなく本当によかったと思う。仕事が忙しい親と遊べなくても地域の人と遊んだ。今も地区の方が皆で協力してやろうとしている。結構仲良くなって、もっと地域で子どもを育てる勢いがついてきたので、それを活性化させることが将来的に故郷にUターンしようという感性を持たせることにもなり重要である。もちろん遊べる場所も大事であり、働く場所もあった方がいいが、心の育成と言う部分では大事になる。

#### ●事務局

我々は東京で「ふるさと光の会」という関東周辺に在住の光市出身者が集まる会を持っているがその会員も、地元紙の「ふるさとへの年賀状」についても、読む人や原稿を出してくる人もふるさとに対する思いはあると思う。そこを結びつける必要はあると思うし、先程から言うような話は市長がいつも言っているが、広域行政の話もあるけれど結局今回の総合戦略にしても過当なばらまき合戦みたいなものに突入すれば際限がないわけで、結局そこに住む人がいかに楽しく幸せに住んでいるかということを着実に積み上げていくことによって長い将来外から帰ってくることに繋がるかもしれないが、これも詭弁かなとも感じている。

我々事務サイドからすれば今回「動く」ということをキーワードに出させていただいているが、まさしく今何らかの行動を、他と同じ行動かもしれないが何もしないよりは行動しないと将来はないという危機感を持った上で今動いているつもりである。

#### ●委員

U J I ターンについて、I ターンとは来るだけであり、セットにしているけれど全く違う。年に数回ニューフィッシャーの方と飲む機会があるが、結構 I ターンの人はいらっしゃると思う。今日ニューファーマーの方もいらっしゃったが、U J I ターンと第一次産業の今しか出来ない手の打ち方が組み合わせることが出来ると思った。漁協がすごく組織として積極的に動くと聞いている。全国に採用活動に行き、その結果若い方が来ている。

新規就農についてはあまり知らなくて、この会に来て知ったのだが私も農家の息子なので何となく感覚は分かる。新規就農の人が苦労したと言う話もあったが、極論を言えば養子縁組制度のようなことをやって、子どもがどこかの会社に入って戻ってこない 80 代後半の方が持っている農地を、I J ターンの人と結びつける。そこで世代を継いでいく為の条件を整えてあげることで、第一次産業として繋がっていく。綺麗な光市を維持し、耕作放棄地が増えないためにも、U J I ターンのところは雇用と言うよりもむしろ第一次産業の継承・継続とリンクさせる必要があると思う。

●事務局

大企業では、光市に工場はあるが採用については本社がやる話であるし、光市に来るかというただ通勤で来るだけの話である。受け皿として、感覚的には大企業があればそこに雇ってくれれば皆帰ってくるというイメージはあるが、若干違うと思う。その中で効果的なのはやはり第一次産業だと思う。

●委員

そこに丁寧な実態に合った施策を盛り込むと成果が出てくる気がする。

●事務局

それと、それを使った第六次産業化である。

●委員

第六次産業は若い人達が食いつきやすいと思う。

●委員

それと違う仕事をしていて後で就農した人というのが第六次産業に効果的だと思う。違う発想を持っているので、モデルケースを増やすことに行政が力を入れてほしい。

●事務局

就農などには結構お金もかけているが。

●委員

大企業にしても今は結構苦しいのではないかな。

●委員

日本に留まることに結構頑張っているところである。

●委員

開発とかの原点は日本にあるが、生産化するときには外国に持って行って空洞化してしまう傾向が強いのではないかな。

●委員

人口 29,000 人の光市になったらうちの会社がどこか行くかといったらそれは全



然関係ないと思う。29,000人になろうが10,000人になろうが、この地域がよければここで生産するし、そのための採用は全国からする。ただ、日本全体が落ち込んで日本国内で物が売れないとか経済的に日本は成り立たないとなれば、海外に行ってしまう。もしくは海外のメーカーに負けてしまう。だから産業政策というものをどう捉えるのかなと思っていた。県レベルの所では色々言いたいこともあるが、市のところではこの1、2、3の中ではウエイトのかけ方が1と3に行く気がしている。

●事務局

通知表みたいに2とか3があって、人口ビジョンの所で説明したように1と3に軸足を置いたほうが施策としては効果的だという数字が出てきている。

●委員

そうやってまちが健全化することが魅力に繋がると思う。

●事務局

ちなみに、あるデータでは光市では製造業の雇用を700人確保したら人口が1万人上がるということになっていたのだから逃げないでほしい。光市の人口を1万人増やそうと思ったら製造業における雇用を700人確保する受け皿を作ればいいので。700人というのは膨大な数字であるが。

●委員

30年、50年後に全国的に人口が減少するとしたらまちはなくなり、市もある程度淘汰されると思う。例えば市を維持する最低の人口というのはあるのか。

●事務局

5万が市になる条件であるが、特例があって下がっている。一回市になったら町になることはない。

●委員

そういうことで、成り立たない所も出てくるのではないかな。ある程度淘汰される中で例えば光市として50年後はどうなのか。

●事務局

是非50年後も光市が残っていて欲しいし、残すために今我々は努力しているが、そうは言っても今から50年先のことを考えても誰もいない。ただ50年後も存続するために今できることを責務としてやっている。

●委員

別の意味でも動く必要があるのではないかな。例えば周南市や下松市と連携するとか。

●事務局

正直に言うと、平成の大合併があってみんな多少は合併疲れをしているところがある。地方公共団体も市民も疲れているところがあるかもしれないし、まだまだ地域が融合できていないところもあるかもしれない。50年先に枠組みがどうなっているか分からないし、県そのものがないかもしれない。国と市の二階層になっているかもしれない。

●委員

ある意味では昭和生まれの我々が平成をどう作り上げていくかということを一生涯懸命考えているから、ある程度大胆な発想をしながらやっていかないといけない。結局は今の若い人の意見を吸収しながらやらないとうまく乗り越えられない気がする。

●委員

中小企業が実際5年で200ぐらい廃業している。これをどうするか。県もやっているが、いわゆる起業、事業を起すことを育成しないといけない。1から10まで出来るような仕組みを作った方がいいと思う。そうすれば都会で活躍した人が光市に戻ってきて何かやってみようということにもなるかもしれない。そういうことが必要だと思う。

●事務局

本当に受け皿としては中小企業が果たしている役割は大きいと思うのでそれを支援しないといけないし、やはり起業家に対する支援はひょっとしたら今から20年後、30年後に世界的な大企業が光市から出るかもしれない。

●委員

大きいビジョンがある方に対する支援はしていると思うが、例えばお母さん世代がハンドメイドやパン作りなど小さい所から大きくするためにどうやってやるのかと知っている人達に対してやり方を教える人がいなくて終わってしまうのがもったいないという意見が出ている。そういう人達に教えるという支援は大した労力もかからないと思うので、そこから始めたらお母さんやその人達がいきいきすると思う。それを見た子供達がここってすごく可能性があると思う発想にもなるし、その人達がまだやれるかもしれないと能力を発揮できる可能性を作っていくこともあったらよいと思う。

●事務局

そのような施策はあるが結局PRが下手である。あるということが情報として行き届かなければ、結局独りよがりになる。色々な支援をやっているが情報が伝わっていないからタイムリーに必要な方に情報が届いていない。このことは大きな反省点である。

●委員

やはり予算の問題がある。知らせるにしても日刊紙にどんどん入れて皆さんに知っていただくのも一つの手ではあるがそのようなお金はないのか。広告や記事で入れてもらうなどしたらどうか。

●事務局

そのあたりの情報提供の方法については行政として考えないといけないと思う。色々やっているがPRが下手である。

●委員

周防工業団地を散歩していると景気のいい会社と悪い会社は見たらすぐ分かる。景気のいい会社は草刈や剪定ができています。その一方、草ボーボーで何人かいるなどという会社もある。もっと団地をうまく活用していくことも必要ではないかと言う気がする。

●委員

空き家について、以前から聞いていたが活かす方法は色々あると思う。そうは言っ

も簡単ではないと関係者の方は言われるので、どのあたりが簡単ではなくてどういう所を解決したらいい方向になるのか分からない。

●事務局

空き家の問題は元々借家とか賃貸のアパートを建てるのではなく、例えば自分が住んでいた所や、親の財産を引き受けて親が亡くなって空いている所をどうにか活用したいという発想があるのだが、不良空き家でも危険になる前に何とか活用しようという仕組みである。やはり結局そこに荷物があって仏様があるので人に貸すためには手を入れなければいけない。そこまでして貸すほどの思いが所有者にはない。必要性がない。

●委員

空き家に住んでいる私が分かっているが、私が住んでいる家も10年ぐらい空き家だった。だから引越したときに近所からものすごく感謝された。聞いたところ300万ぐらいかけて水回り、風呂トイレを直して貸しに出した。幸い半年で借り手が見つかって良かったと。今でも大家さんが大根や人参など色々なものをくれる。月6万ぐらい払っているから年間で70万円ぐらい。それで回収しようと思ったら5年ぐらいかかる。だから現実的にペイしないということが進まない一番のハードルだと思う。

●事務局

逆に言えばそれに誘導するために財政的な改修のモチベーションがあがるような支援が施策としては有り得る。これもお金がかかる話だが。

●委員

まだ打ってないところに効果があると思う。

●事務局

改修して貸しに出そうかなという動機付けの為にちょっとした支援をするというのは施策としてある。色々なことを考えている。お金があれば何でもできる。そういうことも含めて今回は具体的なアイデアをアクションプランとして練らなければいけないし、今回はこれに載せることによって国の支援があるから、やりたいことができるチャンスではあると思う。だから具体的にみんなから知恵を借りながら考えている。引き続き色々知恵をこういう場に限らずお寄せいただければありがたい。

第二部終了 21時40分